

弥生時代の集落分布動態の研究 ―北部九州地方を中心として―
宇佐美 智之

**An Archaeological Study of Settlement Distribution of Yayoi Period in the
Northern Kyushu region**
Tomoyuki USAMI

Abstract: 本論では、弥生時代における集落遺跡の分布の変遷について検討した。北部九州全体における弥生前半期の集落分布の時期的様相について確認をおこなうなかで、筑紫平野における集落数の著しい増大や分布変化の様相に着目し、後半期の分布動態に関する検討を進めた。

Keywords: 集落 (settlement site), 北部九州地方 (the northern Kyushu region), 弥生時代 (the Yayoi period)

はじめに

考古学の研究において、特定の地理的範囲における遺跡（または遺物）の分布図を構築し、分布のパターンと、その時期的な変化を把握することは、基礎的かつ重要な作業である。

本研究が対象とする日本列島の弥生時代には、縄文時代に確立された狩猟・漁撈・採集主体の生業形態が食糧生産主体へと移行し、人口の急増が生じたことが知られる。それは、さまざまな地域への人々の進出・移住を促し、集落の形成・解体（再編）を進展させることになった。また、それをつうじて、整備された大規模な集落（拠点集落）が各所に成立をみるなど、より活発化した社会的動向がうまれていったことも想定される。このような背景において、弥生時代研究のなかで集落分布パターン変化の分析が果たす役割は、特に大き

なものであるということが理解される。

近年においては、発掘調査をとおして得られた、膨大な数におよぶ弥生時代遺跡の資料の整理・検討が、急速に進められてきている。本論ではそれらの成果に依拠しつつ、まずは、水稻農耕の定着・拡大が進んでいった弥生時代前半期（弥生時代早期～中期前半頃相当）に着目して、北部九州全体における集落分布の変遷の確認と整理をおこなう。従来よりも広域的な視点から、分布の時期的様相を把握することをこころみたい。

1. 弥生時代前半期の北部九州における集落分布の変遷

1.1. 対象と方法

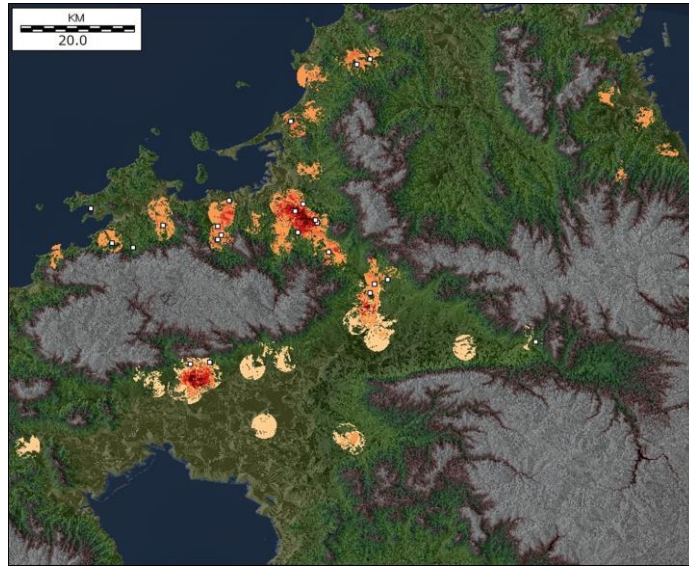
北部九州（主に福岡県・佐賀県）の弥生前半期に相当する集落資料を用い、集落分布の時期的変化を確認する。この作業に際しては、各遺跡調査報告書、ならびに埋蔵文化財研究会による集成的成果（埋蔵文化財研究会編 2006a・b）などを参照し、遺跡データベースを構築した。

ここでは、弥生前半期を I 期（夜臼式期一板付

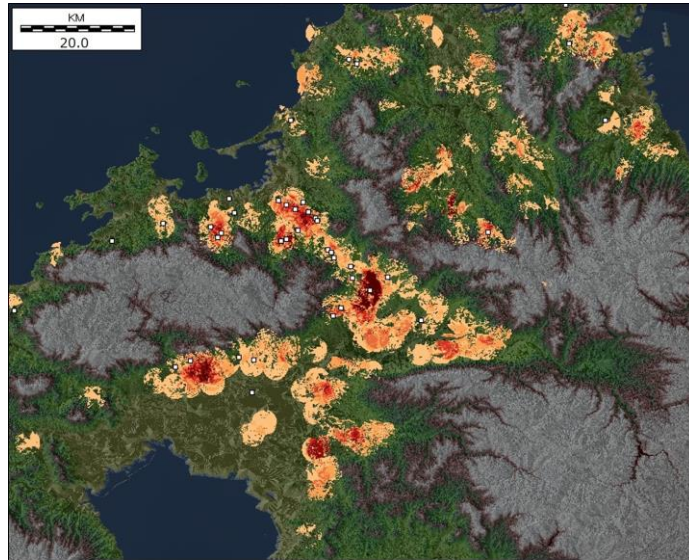
宇佐美 智之 〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大
枝山町 3-2（国際日本文化研究センター）

総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻
（博士後期課程）

Phone: 075-335-2052（日文研）/ E-mail: usami.tm@gmail.com



I 期（前半期前半段階）



II 期（前半期後半段階）

図 1. 北部九州地方の弥生前半期における集落分布様相

I・II (a) 式期), II 期 (板付 II (b・c) 式期—須玖 I 式期) の 2 時期 (前半期前半/後半) に大別し, 累積可視域図 (Cumulative Viewshed Maps: Wheatley1995 ほか) を用いて分布の空間的傾向を表現している (図 1)。また, この図には, 同時期の主要な墓地遺跡の分布 (白色点) を重ねて示している。

1.2. 分析結果の整理・検討 (図 1)

結果を簡単にまとめると, I 期には, 玄界灘 (主に博多湾) 沿岸域一帯において, 分布が広く展開

していることがわかる。玄界灘に面する地域は, 大陸から海をこえて日本列島にいたる「窓口」であり, 最初期の農耕集落や環濠集落が営まれることでも知られる。一方, この様相とは異なり, 筑紫平野 (筑後・佐賀平野) では, 筑後平野北部, また, 佐賀平野中央部といった特定の地理的範囲において分布集中があらわれている。

II 期になると, 多くの地域で集落の数が増え, 分布範囲が大きく拡大する。なかでも, 筑紫平野にみる分布様相の変化は注目される。

筑紫平野全体における集落数は、前時期と比較して大きく増大し、筑後平野北部や佐賀平野中央部以外にも、いくつかの地域において分布の密集傾向が生じていることが把握される。結果的に、分布集中を示すエリアの数が、玄界灘沿岸域のそれに匹敵する、ないしは上回るという状況がうまれていることは重要である。この背景には、筑紫平野への進出・移動や人口増加が生じていくⅠ・Ⅱ期の過程のなかで、より多くの土地で社会組織の形成が進んだということなどが考えられる。

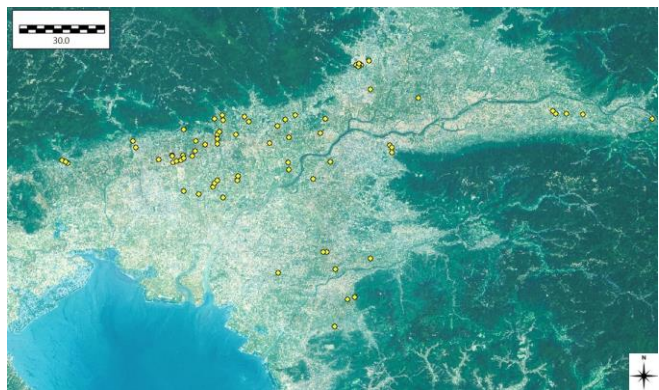
以下では、このような筑紫平野にみる動向が、弥生時代後半期においてどのように展開していくのかという点に絞って、検討を進めることにしたい。

2. 弥生時代後半期の筑紫平野における集落分布の変遷

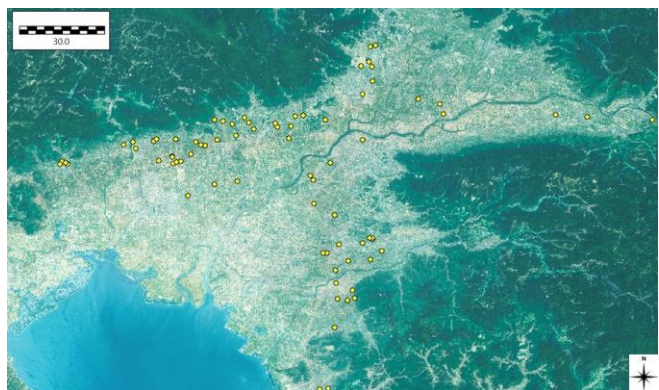
2.1. 対象と方法

佐賀平野、ならびに筑後川流域から筑後・八女地域に相当する地理的範囲を対象として、弥生時代後半期に相当する、中期後半（Ⅲ期）、後期前半（Ⅳ期）、後期後半（Ⅴ期）、終末期／古墳時代初頭（Ⅵ期）という4時期区分において、集落遺跡の消長を整理し、分布の変遷を表現している（図2）。

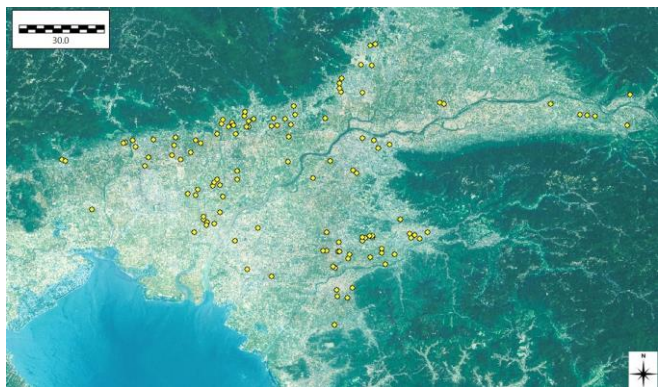
特に佐賀平野に関しては、これまでに集落分布研究が多くおこなわれてきた経緯があるが（細川・渋谷 1999, 藤尾 2006, 細川 2009, 渋谷編 2015 など参照）、筑紫平野全体の動きは必ずしも明瞭になってはいない。玄界灘沿岸域における研究の蓄積と対比させると、筑紫平野のそれは十分なものとはいえないであろう。しかし、上にみたように、筑紫平野における動向には、北部九州地方全体を考えるう



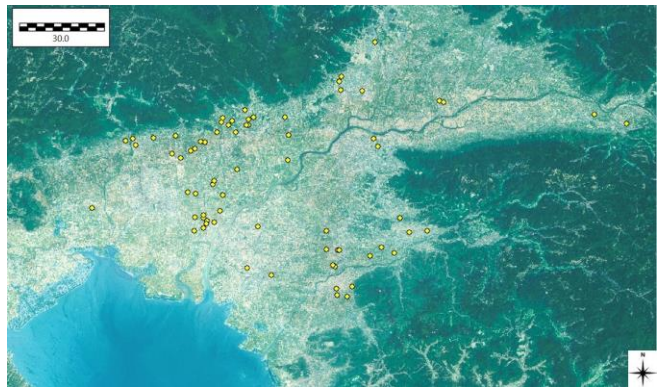
Ⅲ期（中期後半）



Ⅳ期（後期前半）



Ⅴ期（後期後半）



Ⅵ期（終末期／古墳時代初頭）

図2. 筑紫平野における弥生後半期集落分布の展開

えでも、重要な変化が生じている。本論での作業をつうじて、そこに検討を加えるとともに、今後の地域間の比較研究を進めるうえでの糸口を得ることにしたい。

2.2. 分析結果の整理・検討

Ⅲ期において、佐賀平野では、山塊丘陵裾部を中心に集落が形成され、一定程度のまとまりを形作りながら、分布が東西に展開していることがわかる。筑後平野においては、筑後川中流域や、筑後平野南部などに比較的多数の集落の存在が確認される。Ⅱ期にみる分布密集域と対応するであろう。

Ⅳ期における佐賀平野の様相については、Ⅲ期からの大きな変化が生じているわけではない。一方、筑後平野南部（筑後市・八女市など）において、比較的明瞭に集落数の増加が認められる。これはⅡ・Ⅲ期にも分布の集中性が高かったエリアである。

Ⅴ期をむかえると、筑後川下流域において際立った動きが起こる。集落数の面でかなりの増加が認められ、また、脊振山丘陵裾部以外に、そこから南側のエリア（平野低平地）における集落数も増加する。加えて、八女地域東部において、集落数がさらに増え、筑後平野南部では集落数がこの段階でピークをむかえることになる。

Ⅵ期においては、全体的に集落数が減少するが、同様のパターンは確認される。筑後川下流域における集落数は依然として多く、分布の集中性も高い。

以上の検討より、集落数の増加や分布変化の面で、Ⅴ期がひとつの転換期となることが確認される。この具体的背景については本論で詳しく論じることではないが、Ⅰ・Ⅱ期に分布集中傾向が生じたエリアに加えて、有明海につうじる筑後川下流域という空間に分布が集中し、そこへの指向性がつよくあらわれていったということが理解される。この点については、河川・海域・陸上と

いう要素が絡むポイントが新たに重要性を帯びていったことなどが、考えられる。

おわりに

本論では、まず弥生前半期における集落分布の変遷をたどり、全般的傾向を把握するなかで、筑紫平野にみられる分布の著しい変化の様相に着目し、分析の的を絞って弥生後半期についての確認・整理をおこなった。この作業を基礎として、他地域、特に玄界灘沿岸域の様相との相互参照・比較を進めることを、今後の課題としている。

参考文献

- Wheatley, D., 1995. Cumulative viewshed analysis: a GIS-based method for investigating intervisibility, and its archaeological application. Lock, G. and Stančić, Z., eds. *Archaeology and Geographical Information Systems*, 171-185. London: Taylor & Francis.
- 藤尾慎一郎 (2006) : 「GIS にもとづく佐賀平野における縄文～弥生時代の遺跡分布」『実践考古学 GIS : 先端技術で歴史空間を読む』(宇野隆夫編) pp. 290-297, NTT 出版.
- 細川金也・渋谷格 (1999) : 「弥生時代の集落 : 佐賀平野の中・後期」『弥生時代の集落一中・後期を中心として一 (発表要旨集)』pp. 137-157.
- 細川金也 (2009) : 「佐賀県における弥生時代後期の社会変化」『弥生時代後期の社会変化』(第 58 回埋蔵文化財研究会発表要旨・資料集).
- 埋蔵文化財研究会 (第 55 回埋蔵文化財研究会実行委員会) 編 (2006a) : 『弥生集落の成立と展開 : 発表要旨集』埋蔵文化財研究会.
- 埋蔵文化財研究会 (第 55 回埋蔵文化財研究会実行委員会) 編 (2006b) : 『弥生集落の成立と展開 : 資料集第 I 分冊 (九州編)』埋蔵文化財研究会.
- 渋谷格編 (2015) : 『吉野ヶ里遺跡 : 弥生時代の集落跡』佐賀県文化財調査報告書第 207 集.